

RIKADAI Neuroscience Seminar Series

Talk 01

自閉症候補遺伝子の機能解析 ～ヒト遺伝子研究からモデルマウスまで～

演者: 小黒-安藤 麻美 先生

Department of Translational Neuroscience
University Medical Center Utrecht

日時: 2016年5月25日 (水)
17:00 ~

場所: 計算科学フロンティア4階会議室

自閉症スペクトラム障害 (ASD) は、臨床的に社会性・コミュニケーション能力の障害や、反復的な行動障害を伴う神経発達障害であります。学習と記憶に関する研究は、ASDの多様性を簡素化するためにできるエンドフェノタイプの一つです。現在までに700以上もの自閉症関連遺伝子が報告されていますが、それらの共通カスケードやメカニズムについては今だ不明な点が多いです。これまでに私は、それらターゲット遺伝子の解析を、ノックアウトモデルマウスを用いて研究しています。今回の発表では、UCLAで行っていた15番染色体重複のターゲット遺伝子であるCYFIP1の解析方法、ユトレヒトで行ったCSSを用いた社会性行動学スクリーニングからの遺伝子同定とメカニズム解析、そして現在のターゲットであるIgの細胞接着分子 (IgCAM) であるContactin4 (CNTN4) の機能解析についてお話しし、自閉症のメカニズムにどう迫るかを議論させていただきます。

また、私は東京理科大学理工学部物理学科出身です。その後のキャリアパスの話などにも最後に少し触れさせていただきます。

< 演者紹介 >

1980年生まれ。埼玉県所沢市出身。既婚、一児の母。2003年に東京理科大学理工学部物理学科を卒業。2008年に東京大学大学院・生命環境科学系・石浦研究室にて博士号を取得。

学部までは物理学科で理論素粒子物理学を学んでいたが、高校時代から興味があった生物物理学の研究を行うため、大学院から東大へ移りストレス応答性分子シャペロンの研究を行う。博士号取得後は、UCLA・Daniel Geschwind lab (2008-2012) にて、ポスドクとしてモデルマウスを用いた自閉症候補遺伝子の機能解析に取り組み、その後はUMC Utrecht・Peter Burbach lab (2012-2016) にて、別の自閉症候補遺伝子の機能解析を研究している。今夏よりイギリス・エクセター大学医学部にLecturer/assistant professorとして、小黒-安藤研究室を主催し、発達脳科学や精神疾患の研究に努める予定。

主催: 応用生物科学科 古市貞一
共催: 脳学際研究部門

世話人: 応用生物科学科 佐野良威 3445
yoshitake_sano@rs.tus.ac.jp

